

健康メディカル学部 言語聴覚学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

資質の高い言語聴覚士の養成のために、教養教育と知識や技能を習得する専門教育、更にそれらを統合する臨床実習を行っています。

教養教育では、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」において、職業教育、マナー教育を行い、ボランティア活動を推奨しています。専門教育では、言語聴覚士として必要な、失語症・高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語障害、接食嚥下障害、聴覚障害などに関する専門的知識や技能が段階的に習得できるように「専門基礎科目」、および講義と演習・実習形式の「専門科目」を配置しています。臨床実習については、臨床能力を確実に身につけられるよう見学実習、評価実習、総合実習と3段階に分けて実施し、個別指導を徹底しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・1年次の「フレッシュセミナー」では、アカデミックスキルの習得に向けた初年次教育を実施しています。
- ・1、2年次の「フレッシュセミナー」では、言語聴覚士としての基本的な日本語能力を向上させる目的で、文章表現の演習を取り入れました。また言語聴覚士としての職業意識を培うことに重点をおいて、マナー・キャリア教育を実施し、ボランティア活動を実践させています。
- ・3年次の「アドバンスセミナー」では、面接技術の演習と学生同士の相互評価を取り入れています。また学内外の講師による実習前ガイダンスを実施して、実習前教育の充実を図っています。
- ・3年次では、「言語聴覚障害評価・指導」及び「言語聴覚障害臨床演習」を開設し、言語聴覚士としての態度及び総合的な知識、臨床能力の向上を目指して指導を行っています。

- ・4年次では、実習後の報告会を通して、臨床実践に必要な情報の分析・統合能力、プレゼンテーション・ディスカッション能力の向上を目指しています。